

Ⅱ 農場運営

1 総務事項

1) 人事異動

2021. 4. 1 異動
津田 勝男：農場長（兼任）
新規採用
山崎 哲志：入来牧場技能補佐員
2021. 7. 1 異動
松下 岳：農場事務係主任
- 2021.12.31 辞職
川口 昭二：唐湊果樹園再雇用職員
2022. 2. 1 採用
津留見芳史：唐湊果樹園技能補佐員
田島 和久：指宿植物試験場技能補佐員
2022. 3.31 退職
津留見芳史：唐湊果樹園技能補佐員

2) 技術職員研修

農場実習の高度化および充実を図るためには、技術職員の資質向上が不可欠である。農場では技術職員の資質向上を最重要課題と位置づけて、以下のような各種の研修を実施した。

(1) 伐木等業務（チェーンソー等）特別教育講習

時 期：令和3年8月4日～6日
場 所：溝辺コミュニティーセンター（霧島市）
研修者：入来牧場 有働穰嗣技術職員

(2) けん引自動車運転免許（農耕用）

時 期：令和3年11月8日～12日
場 所：鹿児島県立農業大学校（日置市）
研修者：入来牧場 富永輝技術専門職員

(3) 食品衛生責任者養成講習会

時 期：令和3年11月17日
場 所：南薩地域振興局指宿庁舎（指宿市）
研修者：指宿植物試験場 勘米良祥多技術専門職員

(4) 大型特殊自動車免許（農耕用）

時 期：令和3年12月6日～10日
場 所：鹿児島県農業大学校（日置市）
研修者：入来牧場 日高裕希技術職員

3) 農場施設の利用

農場では、学外・内を問わず広く施設の利用を受け入れている。

(1) 学外

(学内農場農事部)

- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 147名
時期：令和3年4月5日～23日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気付き、季節感を養う
- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 153名
時期：令和3年4月30日
内容：身の回り（大学）にいる生き物が何をしているのか、自分が生き物とどうかかわっているかなど、しっかりと捉え、パスを使って、思いのままにのびのびと絵に表すため
- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 158名
時期：令和3年5月17日～31日

- 内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 158名
時期：令和3年6月14日～7月9日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島県立甲南高等学校 24名
時期：令和3年6月19日～9月30日
内容：甲南高校スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業における農学部遠城道雄教授との共同研究による、ミツバチの観察のための巣箱の設置および管理
- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 152名
時期：令和3年11月5日～22日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 1名
時期：令和3年12月21日
内容：農業に関心のある児童に対して、総合的な学習の時間において、農作業を体験させるため
- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 152名
時期：令和4年1月12日～28日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う
- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 1名
時期：令和4年1月20日、27日
内容：農業に関心のある児童に対して、総合的な学習の時間において、農作業を体験させるため
- ・鹿児島大教育学部学附属小学校 152名
時期：令和4年3月17日～25日
内容：田んぼや畑にいる生き物と触れ合う活動を通して、季節の特徴的な事物や現象に気づき、季節感を養う

(動物飼育棟 (学内畜産部))

該当なし

(唐湊果樹園)

該当なし

(指宿植物試験場)

該当なし

(入来牧場)

- ・(株)川北電工 5名
時期：令和3年6月14日
内容：牧場内の鉄塔（No71, No73）敷地内の除草作業
- ・鹿児島県教育委員会（中高生インターンシップ事業） 1名
時期：令和3年8月3日～5日
内容：入来牧場における黒毛和種の飼養管理、草地管理など肉牛生産の基礎事項を体験することを通して、将来の社会参画への意義を体験的に自覚させ、学習意欲の向上を図る
- ・(株)川北電工 4名
時期：令和3年10月7日
内容：牧場内の鉄塔（No71, No73）敷地内の除草作業

(2) 学内

(学内農場農事部)

令和3年度

- 4月15日 5期開講の「水土実験」において、畑地における水の浸透具合を調べるために使用する。具体的には、内径30cm、高さ30cmの円筒鉄板を、それぞれ少し離れた農場内の4箇所程度に埋め込み、その中に無図を一定の時間間隔で給水しながら水面の低下量を測定する。本試験により対象のうちの保水性および排水不良による表面流去の危険性を調べる（24名）
- 4月21日～5月31日 学内農場7号圃場および8号圃場周辺でのアカツメクサおよびシロツメクサと植物に来る昆虫の観察（2名）
- 11月19日 職場懇談会の代替えとなる意見交換会（2階講義室）（9名）

Ⅱ 農場運営

(動物飼育棟 (学内畜産部))

該当なし

(唐湊果樹園)

5月21日	樹木の同定実習 (18名)
7月3日	小学生を対象とした、森林活動の試験運用 (35名)
7月11日	家族を対象とした、フィールド散策や森林活動の試験運用 (49名)
7月20日	農林環境科学科森林科学コースの暖帯林実習テスト用の植物サンプリング (3名)
10月2日	小学生を対象とした、森林活動の試験運用 (48名)
10月24日	家族を対象とした、フィールド散策や森林活動の試験運用 (48名)
11月28日	家族を対象とした、フィールド散策や森林活動の試験運用 (48名)
12月4日	小学生を対象とした、森林活動の試験運用 (48名)
令和4年 1月22日	農林環境科学科森林科学コースで開講されている「森林計測実習」において、斜面上でのコンパスによるトラバース測量の実習 (40名)

(指宿植物試験場)

4月24日	遺伝資源保存用のヤムイモおよびウコンの定植 (8名)
4月27日	クサトベラの開花状況と生育状況のチェック、肥料の散布 (1名)
6月1日	遺伝資源保存用ヤムイモ圃場の支柱立てと除草作業 (5名)
6月17日	ロゼルの播種 (3名)
7月15日	熱帯果樹の利用に向けて、施設内の熱帯植物の視察 (2名)
7月27日	遺伝資源保存用ヤムイモ圃場の除草作業 (4名)
10月29日	カカオ研究の実施 (1名)
12月4日	遺伝資源保存用のヤムイモおよびウコン収穫・調査 (10名)
令和4年 1月22日	ロゼルの栽培管理 (1名)

(入来牧場)

4月7日	シカのライトセンサス (1名)
4月14日	ヤギ放牧試験地の植生調査 (5名)
4月14日	ヤギ放牧地 (野草地) の整備 (10名)
5月18日	シカのライトセンサス (1名)
6月22日	シカのライトセンサス (1名)
7月20日	シカのライトセンサス (1名)
8月10日	シカのライトセンサス (1名)
9月21日	シカのライトセンサス (1名)
10月13日	シカのライトセンサス (1名)
11月19日	シカのライトセンサス (1名)
12月3日	シカのライトセンサス (1名)
令和4年 1月7日	シカのライトセンサス (1名)
2月4日	シカのライトセンサス (1名)
3月23日	実験機材の運搬 (1名)

4) 刊行物

鹿児島大学農学部農場年報, 第16号 (2022.3) (2015年度から印刷物を廃止し, Webでの配信のみとした)
鹿児島大学農学部農場研究報告, 第43号 (2022.3)

5) 行事

7月2日 学内農場農事部お田植え祭

※本年度は, 新型コロナウイルス感染拡大防止のため, 以下行事の開催を見送った。

展示即売会

入来牧場牧神祭

唐湊果樹園収穫祭

6) 令和3年度全国大学附属農場協議会

(1) 春季協議会（メール審議）

日 時：令和3年6月1日～11日

(2) 秋季協議会（メール審議）

日 時：令和3年9月14日（オンライン開催）

(3) 九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会（メール審議）

日 時：令和3年12月20日～24日

2 会計事項

1) 予算および決算

令和3年度の農場予算および決算は、第6表のとおりである。予算額120,988,000円に対し、決算額121,425,000円で、437,000円の過不足額が生じた。

第6表 令和3年度予算および決算

(単位：円)

施設名	当初配分額	追加配分額 および振替額	予算額	決算額	差引過不足額
農場実習経費	0	0	0	0	0
農場実習支援経費	34,493,000	13,074,000	49,567,000	49,443,000	124,000
農場運営経費	43,870,000	27,551,000	71,421,000	71,982,000	△561,000
主事	0	0	0	0	0
植物部門主任	0	0	0	0	0
動物部門主任	0	0	0	0	0
合 計	80,363,000	40,625,000	120,988,000	121,425,000	△437,000

2) 機械、設備および備品

今年度は、機械、備品への予算の充当はなかった。

第7表 平成3年度機械設備等の整備（50万円以上 予算：自己収入）

機械設備名	メーカー・規格	数量	金額（円）	施設名
トラクター	ヤンマー YT233A	1台	266,400 (総額4,262,400 8年リース)	学内農事部
トラクター	JD-6090M	1台	10,890,000	入来牧場
大豆脱粒機	ヤンマー PBT611	1台	692,000	学内農事部
運搬車	ヤンマー FG190SD-V4WD	1台	946,000	唐湊果樹園
合 計			12,794,400	

3) 施設整備

(1) 学内農場農事部

数年前より、作物生産に配慮した輪作体系を組み、最低でも5年間の間隔をあけるようローテーションを組んでいく。また、単作にならないよう緑肥などと組み合わせ、耕種的防除を行っている。

施設に関しては、耐用年数を超えたハウスや硬質プラスチックハウスが存在し、部分的な補修を行い使用しているが、今後全体的な改修が必要と思われる。

(2) 唐湊果樹園

果樹園は敷地境界にフェンスを設置しているが、老朽化している箇所がみられることから、更新が必要である。また、敷地境界では、ゴミの投げ込みもみられることから対策もあわせて必要となる。

(3) 指宿植物試験場

ここ数年、施設の加温に利用している温泉量が減少傾向にあるため、一部の温室やハウスでは、従来の温度確保が難しくなってきた。一時的な現象かどうかを見極める必要があるが、平成20年度に導入された「省エネルギー型生産技術開発システム」に利用する温泉量も減少しており、今後、湯量の確保に向けた方策が必要になる。更に、倉庫や堆肥置き場などの老朽化や大雨時の浸水などへの対策、管理棟浴室の改修が望まれる。

今年度、老朽化により温泉など水漏れをしていた熱交換器を新しいものに交換できた。その結果、交換できた温室やビニールハウスの暖房効果の向上が期待できる。管理棟の浴室改修も今年度行い、男子浴室の改修のほか、職員室を今までなかった女子シャワー室として新設した。更に、浴室改修に伴い事務室の改修も行い、面積を拡大した事務室兼職員室の改修も完了した。

(4) 入来牧場

入来牧場管理棟は、竣工（1968）後、50年を経過し、壁面の亀裂、雨漏りなど、老朽化が著しい状況であった。平成20年度には、平成19年度から繰り越した農場経費と大学本部経費により、女性用トイレと風呂の新設および職員室の改修を行ったものの、入来牧場管理棟2階部分（宿泊室、講義室）、1階部分（男子トイレ、風呂、食堂）および外壁の改修が課題として残っていた。平成29年度概算要求により、平成30年度の入来牧場管理棟全面改修工事が決定し、令和元年度に全面改修が完了している。一方で、現場の畜舎に関しては管理棟同様竣工後約50年を経過しているものの、改修の目途が立っていない。学生教職員の安全確保の観点からも、現場畜舎の概算要求による改修を引き続き申請している。

(5) 学内農場畜産部

動物飼育棟は築約35年を経過し、雨漏りが頻発していたため、これまで部分的な補修を繰り返してきた。しかし、部分的な補修では改善が見られないことから、平成23年度末に附属演習林から予算借入れを行い、屋根の全面補修を行った。その結果、雨漏りは止まったものの、建物本体の劣化および排水などの問題は依然として残ったままである。

3 各種会議および委員会

農学部は平成28年度（2016年度）に改組を行い新体制がスタートした。改組は学年進行であるが新組織に適應させるよう本農場の各種会議および委員会の構成員も変更を行った。

1) 農場会議

(1) 委員名簿（任期2年 2020年4月1日～2022年3月31日）

農場長（議長）	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	志水 勝好
応用植物科学コース	山本 雅史
応用植物科学コース	坂巻 祥孝
畜産科学コース	中西 良孝
食料農業経済学コース	李 哉汝
食料生命科学科	渡部 由香
農林環境科学科	神田 英司
総務課長	中村 智子

(2) 会議記録

第1回：令和3年7月12日（月）11時00分～11時35分

- 議題 1. 令和2年度附属農場決算（案）について
2. 令和3年度附属農場予算（案）について

報告事項

1. 令和3年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について
2. 令和3年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会について
3. 令和2年度第1回農場運営委員会の報告について
4. 指宿植物試験場管理棟浴室改修工事（女子用浴室の増設）の実施について

第2回：令和3年9月3日（金）～9月9日（木）（メール会議）

- 議題 1. 令和3年度後期農場実習（案）について
2. 令和3年度後期農場施設等利用計画（案）について

第3回：令和4年3月18日（金）13時15分～13時45分

- 議題 1. 令和4年度前期農場実習（案）について

2. 令和4年度前期農場施設等利用計画(案)について
報告事項

1. 令和4年度農場関連会議等委員名簿(案)について
2. 令和4年度生産物展示即売会の開催中止について

2) 農場運営委員会

(1) 委員名簿(任期2年 2020年4月1日~2022年3月31日)

農場長(委員長)	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
兼任教員	下田代智英
兼任教員	香西 直子
兼任教員	高山 耕二
農事部技術総括	野村 哲也
唐湊果樹園技術総括	福留 弘康
指宿植物試験場技術総括	谷村 音樹
入来牧場技術総括	松元 里志
総務課長代理	川崎 勇二(農場事務係長兼務)

(2) 委員会記録

第1回: 令和3年7月12日(月) 9時00分~9時40分

- 議題
1. 令和2年度附属農場決算(案)について
 2. 令和3年度附属農場予算(案)について

報告事項

1. 令和3年度全国大学附属農場協議会九州地域協議会及び技術職員教育・研究発表会について
2. 令和3年度全国大学附属農場協議会秋季全国協議会について
3. 各施設報告

3) 農場実習教育委員会(任期なし)

(1) 委員名簿

農場長(委員長)	津田 勝男
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
農業生産科学科 応用植物科学コース	下田代智英
〃	坂上 潤一
〃	一谷 勝之
〃	志水 勝好
〃	山本 雅史
〃	香西 直子
〃	吉田理一郎
〃	橋本 文雄
〃	清水 圭一
〃	坂巻 祥孝
畜産科学コース	大久津昌治
〃	三好 和陸
〃	岡本 新
〃	下桐 猛
〃	中西 良孝
〃	高山 耕二
〃	後藤 貴文

Ⅱ 農場運営

畜産科学コース	大塚 彰
〃	井尻 大地
農林環境科学科 地域環境システム学コース	末吉 武志
自然科学教育研究支援センター	
遺伝子実験施設	田浦 悟

(2) 委員会記録

第1回：令和3年9月1日（水）10時30分～11時15分
議題 1. 令和3年度後期農場実習（案）について

4) 附属農場施設等利用委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2020年4月1日～2022年3月31日）

農場主事（委員長）	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
応用植物科学コース	下田代智英
応用植物科学コース	一谷 勝之
応用植物科学コース	香西 直子
畜産科学コース	高山 耕二
食料生命科学科	樗木 直也
農林環境科学科	神田 英司

(2) 委員会記録

第1回：令和3年8月25日（水）～9月1日（水）（メール会議）

議題 1. 令和3年度後期施設等利用計画（案）について
2. その他

第2回：令和4年2月25日（金）～3月4日（金）（メール会議）

議題 1. 令和4年度前期施設等利用計画（案）について
2. その他

5) 農場研究報告編集委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2020年4月1日～2022年3月31日）

農場主事（委員長）	遠城 道雄
応用植物科学コース	山本 雅史
応用植物科学コース	下田代智英
畜産科学コース	下桐 猛
食環境制御科学コース	赤木 功

(2) 委員会記録

第1回：令和3年4月7日（水）16時00分～16時10分

議題 1. 農場研究報告編集委員会委員長の選出について
2. 鹿児島大学農学部農場研究報告原稿の募集について
3. その他

第2回：令和3年11月11日（木）10時30分～10時50分

議題 1. 農場研究報告第43号受付原稿の査読者の選定について
2. 投稿規程及び原稿作成要領について
3. その他

6) 農場家畜防疫対策検討委員会

(1) 委員名簿（任期2年 2020年4月1日～2022年3月31日）

農場長（委員長）	津田 勝男
農業生産科学科畜産科学コース	岡本 新

農業生産科学科畜産科学コース	中西 良孝
〃	井尻 大地
農場主事	遠城 道雄
植物部門主任	朴 炳宰
動物部門主任	大島 一郎
入来牧場技術総括	松元 里志
入来牧場管理獣医師	山口 浩

(2) 委員会記録
(実施なし)

4 入来牧場における牛白血病ウイルス (BLV) 清浄化の進捗状況

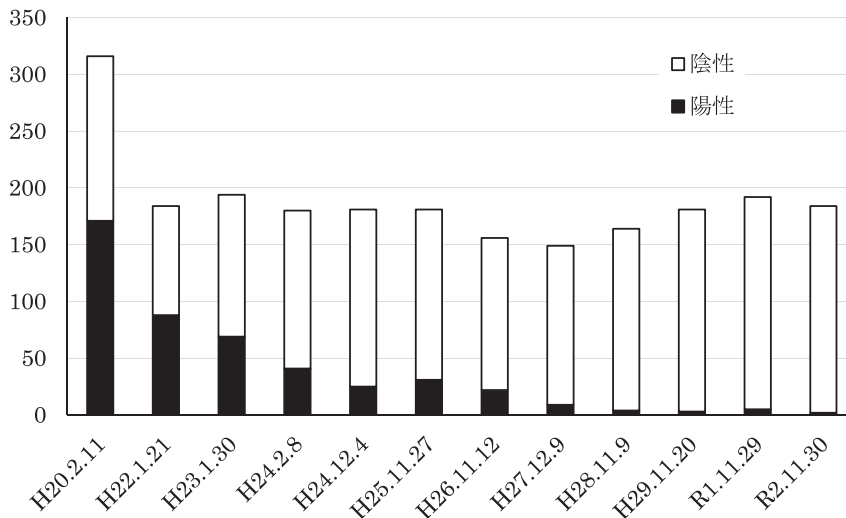


図1 牛白血病ウイルス保有率の推移

平成19年10月、入来牧場における飼養牛のBLV血清抗体価を調査した結果、検査頭数361頭のうち、陽性牛は210頭となり、全体の58%が牛白血病ウイルスに感染していることが判明した。この結果を受け、農場では平成20年1月以降、家畜防疫対策委員会を設置し、入来牧場の牛白血病ウイルス清浄化を、分娩管理および分離飼育の両側面から進めることを決定した。入来牧場では、直ちに清浄化対策を実施し、平成20年5月で陽性率51%、平成20年11月には陽性率は41%、平成24年12月には陽性率14%、平成25年11月の調査では陽性率17%、平成26年11月には陽性率14%となり、平成27年度以降の調査では陽性率が10%を下回って横ばいに推移した。その後、令和2年11月の調査では1%以下となり、令和3年7月および12月の検査ではいずれも0%であった。現在、継続的な防疫体制を維持するとともに、定期的な血液検査を行っていく予定である。